# 平成２７年度第１回青梅市美術館運営委員会会議録

平成２７年４月２７日（月）
青梅市立美術館第１研修室
会議時間 10:00～11:32
出席者　委員７名、教育長
教育部長、事務局３名

１　開　会
２　委嘱状の交付
３　教育長あいさつ
４　協議事項
　委員長および副委員長の選任について
　委員長　角井　博、副委員長　吉川英明　（決定）
５　報告事項
（1）平成２６度青梅市立美術館事業結果について
　ア 展示事業について
　イ 普及事業について
　ウ その他の事業について
　エ 展示室研修室貸出使用状況について
　オ 入館者数について
　カ 収蔵資料について
　キ 広報、広告について
　ク 施設整備について
　　事務局から説明　（了承）
（2）アンケート結果について
　事務局から説明　（了承）
（3）平成２７年度青梅市立美術館事業について
　事務局から説明　（了承）
（4）その他
　青梅市屋根貸し事業について、美術館屋上を民間業者に賃貸し、太陽光パネルが本年度５月に設置されるが、展示事業や躯体への影響はなく、メリットとしては、停電時の電源として無償で利用できる旨、事務局から説明、報告する。

〔 主な質疑・応答・意見〕

（委　員）常設展示の方法について、第２展示室の入り口の衝立を境にして左側に小島善太郎作品、その右側に藤本能道作品を展示されている。共催展等で比較的近代的なムーブメントのある作品が能道作品と同じ空間に展示されることがあるが、会場の雰囲気として、非常に違和感があるので、衝立を移動して、常設展示のスペースと他の展示作品のスペースを分けるような方法はとれないか。

（事務局）衝立の移動も含め、常設展示の空間と他の展示会の空間を分けられるよう展示方法を検討していきたい。

（委　員）新規収蔵作品の収集方法として、寄贈以外にも購入により取得する予算はあるのか。

（事務局）購入により新たな作品を収集する場合は、定額３千万円の美術作品取得基金により取得する。現在、３千万円のうち約２千２百万円は作品として、約８百万円を現金で保有しており、実際にはこの現金を購入資金に充てることになる。現金保有分については、作品で保有している分を、適宜、一般会計に振り替えて現金化し、ある程度の金額を保有するようにしている。

購入に当たっては、青梅市立美術館美術作品収集方針にもとづき、美術館が所蔵するにふさわしい作品を取得するよう選定作業を行っている。

（委　員）直近ではいつ購入したか。

（事務局）直近での基金による購入は、平成１８年度に日本画、油彩、工芸品をそれぞれ１点、計３点を３５０万円で購入した。以降、現金保有分が小額になり新たな作品は購入していないが、平成２４年度に指定寄付金があり、現金保有額が約８百万円に増加したので、今後、当館にふさわしい作品があれば購入を検討したい。

（委　員）アンケートの回答の中で、例年にはない、特に変わった意見はあったか。

（事務局）アンケート結果から、当館の観覧者の傾向としては、日本画展の人気が高いということが如実に判明した。

（委　員）アンケートの回収率は良いほうか。

（事務局）熱心な方が回答してくださるが、回収率は高いほうではない。

（委　員）特別展は、ＮＨＫの日曜美術館のアートシーンで取上げられた

ということであるが、青梅市立美術館から情報を提供したのか。

（事務局）展覧会の開催の際には、特別展に限らず、その都度、プレスリリースという形で、新聞・雑誌・テレビ等のメディア、８５か所に情報を発信している。

（委　員）特別展の展示作品で、山田敬中の「花うり」は、絵自体がかなり傷んでいるというような意見があったが、その実態は把握しているか。

（事務局）絵の状態は把握している。

（委　員）把握しているのであれば、その補修等はどのように考えているか。

（事務局）作品の修復に関しては、多額の費用を要することから、一度に全ての作品を修復することができないため、痛みの激しいものから順次修復していくということで、毎年予算措置している。２６年度は、黒田古都の「白牡丹」を修復したが、毎年、修復する作品を選定し、その修復にかかる費用を積算し、予算要求している。２７年度は、小島善太郎の「中村覚肖像」を修復する予定であり、今後も計画的に予算要求していきたい。

（委　員）日本画には軸装のものが多いが、その展示の際には絵具のはく落等が心配されるが、どのように配慮しているか。

（事務局）軸装された日本画の展示に際しては、壁に直に展示することができず、その取り扱いも慎重に行わなければならない。開館 30 周年の特別展では、展示ケースを借上げ、軸装作品の全てをケースに展示した。ご指摘のとおり、展示作業に当たっては、経年劣化した作品の絵具のはく落等が心配されるところであるが、作品の展示作業は美術作品専門の業者と学芸員が行っており、特に軸装の日本画の展示には細心の注意を払って行っている。

６　その他

第２回運営委員会の開催予定　平成２８年２月上旬を予定（事前に日程調整を行う。）

閉　会